

令和5年度 福岡市西保健所運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年8月30日(水) 13時半～14時25分
- 2 場 所 西保健所1階 講堂
- 3 出席者 池田委員、大塚委員、おばた委員、勝見委員、川上委員、坂尾委員、柴戸委員、田中委員、中村委員、波多江委員、瀧野委員、松尾委員、松原委員、牟田口委員
(以上14名、五十音順)

欠席者 今西委員、清成委員、手島委員、眞鍋委員、三嶋委員、山村委員

事務局 向井保健所長、古江健康課長、川越衛生課長、立石地域保健福祉課長、

傍聴者 なし
- 4 開 会 定足数確認(委員20名中14名出席)
- 5 所長挨拶 向井保健所長
- 6 議事概要

【議題1 会長・副会長選出】

会長に池田委員、副会長に瀧野委員を選出
会長、副会長挨拶

【議題2 令和4年度 事業報告】及び【議題3 令和5年度 主な事業計画】(一括審議 説明者) 関係課長

〔質疑応答〕

《委員》ある地域が受水槽から井戸水に変更しているが、変更の際はどのような指導を行ったのか。

《事務局》個別事案になるため詳細については申し上げにくいですが、この場合は、独自に掘った井戸をもし使用するのであれば、水質で健康被害が起こらない、しっかりした管理を行うよう指導した。

《委員》独居老人の健康管理等はどうしているのか。民生委員だけでは足りないと思うが、他に対策はあるのか。

《事務局》社協(社会福祉協議会)の事業の中に「ふれあいネットワーク」というものがある。地域の中で構成されていて、独居のお年寄りを見守る仕組みとなっている。他に公民館や集会所等で行う「ふれあいサロン」も社協の事業の1つである。ここへは、保健所からも年に数回健康づくりの講話などを行っている。こういった活動の中で、民生委員や公民館の職員、衛生連合会の方などの地域の方が、気になる方に声をかけたり、各地域にあるいきいきセンターへつないだりしている。

こういった場に参加したくない、または参加できない方をどうやって見守るかが、課題となっている。

《委員》コロナ禍ということもあり、人とのつながりが希薄になっているので、より一層の働きかけをお願いしたい。

《委員》母子保健の医療等給付について不妊治療費助成事業が終了した理由と、それに代わる支援が別にあるのか。

《事務局》不妊治療費助成事業については、令和4年4月から不妊治療が保険適用になったので、令和4年3月31日で終了となった。

また、福岡県では不妊治療における経済的負担を軽減するために、保険適用となった特定不妊治療と併用して自己負担の検診料については、その費用の一部を助成するといった事業も開始している。

《委員》がん検診について、コロナ禍であったとは思いますが、子宮頸がんや乳がん検診の件数がほぼ横ばいである。若い人の受診が少ないかと思うので、検診者の年齢構成と今後の検診者数の向上対策をお尋ねしたい。

《事務局》がん検診も特定健診もコロナの影響で落ちてしまった検診（健診）件数が、徐々に戻りつつあるが、目標値には達していない状況である。

年齢構成については今データを持ち合わせていないが、検診（健診）の受診率向上については、（保健所で実施する）集団検診のPR以外にも、医療機関での受診勧奨依頼を、直接医療機関を訪問したり、医師会を通して行ったりしている。

《委員》特に子宮頸がんや乳がんのような、女性特有で検診を受けたくても受けられない、受けにくい時期があると思うので、色々な世代の方が受けやすい仕組みづくりがこれからもっと必要になると思うので、今後はこれらのことも考慮していただきたい。

《事務局》お子様がいて受けづらい女性の方向けに託児付き健診も行っており、受けやすい環境づくりを行っている。

【議題4 新型コロナウイルス感染症について】

説明者）健康課長

〔質疑なし〕

7 閉会

《会長より》行政は多くの情報を発信していると思うが、なかなか市民には届いていないように感じている。せっかくの事業を活かしていきたいと思うので、啓発方法もしっかりとお願いしたい。